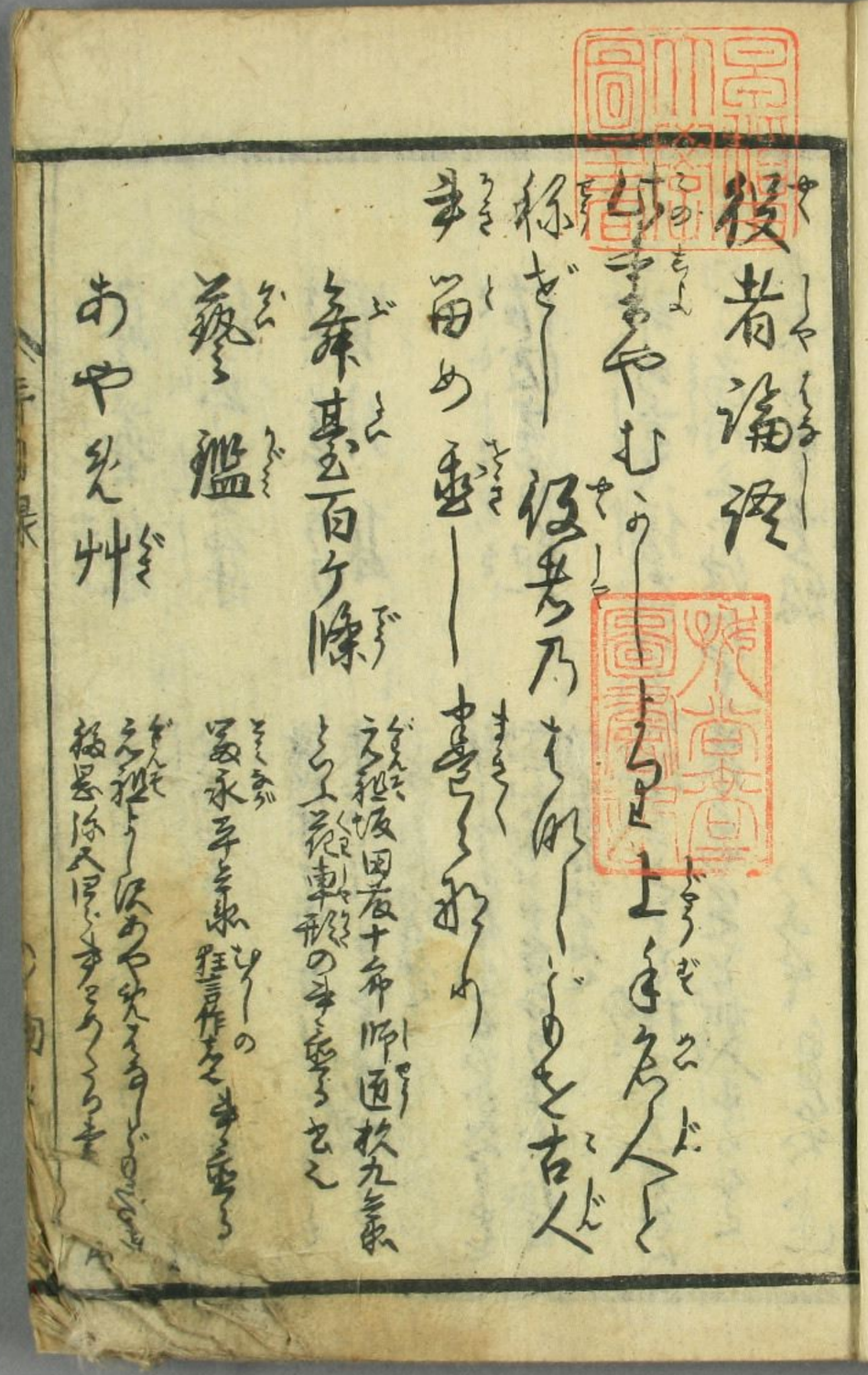
チ 13
1631

1631



役者論語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

耳塵集
續耳塵集
賢外集

佐渡宮日記

右七部の書八優家の長編
対歌の道ハ之ヶ様ハ
安永丙申暮春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふべうとよむ紙べしく
一精と出るとつゝ。ぬてるゑて。仕ぬ之丈。後にあく
まで。精を出して。畑蕪菁出くへ。なるとうすぐ。後ちよ
カ一ぢん。精かしるゝ。ゆとうるゝ。しても。ぬーもろいわらぬの
なり。紙に五文とゝんをはくるだ。蕪菁と牛蒡とあるだ。
ゝとぬくいやしく。あくゝ。ゝんざあのする事うるがひなし。拔恵
蒔たとひみるのゝ。初日より二日もおるゝるゝ。初日乃
日ゝうゝし休して。きのゝれ恵けいこのるとゝんく公よりひ
めゝし。紙やとうて。初日とゝ。初日ゝおち付てるのあく
事なり。お日ゝアタフタと蒔合し。初ゝうけてぬさいがしく

翌日と初日とゝれべうるひるもかるゝゝけよとゝ。ゝ
ケ祭大切の事なり
一紙云の実ゝ虚ゝうゝおうゝ。おうゝ。ゝるゝ実ゝうゝ。ゝ
あてゝなるく
一紙云とゝるゝ。ゝ云ゝよゝとゝるゝ。ゝかむ合し
一蕪菁甚一人しるれべゝ。ゝ蕪菁と拔ゝ。ゝしさ後ゝ
たゝくていゝ。数百の蝶乃。蝶蝶とゝれゝ。ゝ。ゝ
きるく。甚蕪ゝ。ゝるゝ。ゝのゝ。ゝ品ゝ。
ゝるゝとゝ。甚拔の本ゝ。洗拔をはゝとゝ。ゝ実乃
のゝをゝのゝまんとするゝ。紙て洗拔の恵紙ゝ。洗拔の

およ東海と接合せしより時へなれの家そうーかうぐ万知ぞ
実ぐんとうう君恵ちれぐらけまべ行ちんを知よるれうくんよ八
ちう接種のごく嘲ぜ笑名巻の名ぜ
一段くの情をかんぐんうんぐけいさんへ伝るふうく。公ちれ
たるうの武士力安屋へ仕ためあうれむ公みそ人おうけうる
事をいう時へうんとるかうちょう。まして武士の書ちうく
るくぐうぐ義へれよの気る意ぐ気半一うん言の合ぬ
れちへ新人ううも。ふふ情ぐぐまれうそ人の九ようて。せま
ちくうてちうてたのう。又義のかうる情有。ようおがえて
せうちのう。近ちうのうへいく気のうる有

ちうんでめいてれ恋ーでうう有。うれいうとする対武士
乃妻ち新をあげてなくいんぐるし。男ち声をあげく
なくうのようのぶ。新うう見ふうくるぬぐんも声をあげて
うくるなうう。ぐそうれいうちるんぐうう。ちうてなく有。かうくて
なく有。おさんてちうん人見ん人ぐかうてうくいうれん
ふうるうぐ。ちうひ切接女屋ちいう有へ。ぐるし。ぐれうう
ぐがちれ。おぶいうすぐうるぐ。ぐ知くうまもようるく
一うん和へなれうて姿ていうるぐうのうんぐだうくへ金登
ちうけいせいぐうのうちぐうん涙ひうくう。人月ようう風ぐちう
らわけいせいうるう。夜袋うるへ若有へおのべうう人ん

高ふくれたるの行のかりせ。人まじりたのまくるる。人の行ひ
そまりよ節めてもそ多の濃りふるるとなるるぺたるさるる
遠ひこ万一おれの人より。一下雨ゆもも撥とる仕向あるべ。
そ多の金銭をそ人よみるるそ人よみるるさ身を
りりてぺたるめ一ぺのふそちるひより百里の遠ひとるる
○ひそりり下のケ条れ虫ぐみてんぐ怪しぐしく

雅藝百ケ條終

富永平兵衛著

義経

何ものを時よりはつかのなるぺ。そさて牧方の風ぺ時代乃
那須れりむり牧方のはあるしとあり伝人伝。
清人幸といえる。牧方をたよ記とるりの
萩山の郷中ら後宗安武士馬上ふと伝おるもしく
乃の家ふを称しふれよりふ性あ生ぐせりふ海ぺ家女
かはむりふの鉢い舞方のか西るれぺ西塚より切義正しくぺ
とも兼れな牧中ふとやさるれ伝雪の器あり。源よめるふ
るとめぐしぺそくりむりふぺ源めくかさるる清人ふのめく
こそぺそくと平伝それぺ郷とがりて伝去るれぺ名不ふの義

さて片付けようとおもふ。さてこれ
ようとおもふ。人々はいかにして年代の
祝とて、これ今年あるべきなり。
コレそなたの男ぞ。それ何の用ありげなる人にて何の
用ぞ。細さかんとありけるとぞ。彼男ぞ。家屋敷の祝
先大事なる。この松ばかりにて声をこそ
ワとれのべし。今日は万歳の通りとあるなり。
三番叟の踊りけり。お馬のさたは平伏いたしなどぞ。
しかるべき。彼を本屋よりもかくれ有。
ゆく年の年ゆくと何の内家安つくりありし人々なり

さて屋ことにあの侍女衆多なりしなる。
此用の乃万馬上にて乃万あるべしとのお祝ひ
といふのぞんゆのうるはかるべきさまをとりみ
ハのじと何ひけれ。ねてくこそ
こそ。おくべりやと。年とれ。
にし物使いくられるふく。
をなし。行とうとしたるやと何れく
人の身をれ。夕の煙りの。
うと。後ろうくれ。
たのこそ。今日まで。

入ぬ[illegible]と知れ仕る。これ[illegible]浮世のあり様[illegible]
[illegible]ふ方[illegible]おれ。[illegible]のさ[illegible]
[illegible]をもぐ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

している奴オヘけてさぶ泳ぎ。小性のさつまゆうと浅利新蔵ゑうよりと
から、友達の所よりれてとぴいろ〳〵はるとろ紙。侍出く。何をたくとぬに
性のはるを一ちいつてそんよりどめらんぐそいりさこそ。沢をもそんなふ迷
くいれべがんるぐさい秋ホくとはるとぬ。ぬとる西。新こ出出秋およ
白い相よあ。主君家家方家中武運長久と祈念をする新。
ぬさい新ちうしろよ。新こ出が徒せるが小声よあそこえのかねをやさん
原こ白の白野をハこえか一人と本ありりしてこ友達原
小性長先と越一新人孤ちへか仮よるぐこ中主へあれ。源
付れこが行こ友達こ原こ白ぬをはふこうらぐ。ぬ陸ひみること
たこうけてか仮よこうこ入新こ出ぬこと。ぬく友ふちふくや

後ろやと新ここのせうぬりあへ。原拝ぬこといの内ぬ。あ裏れあ
出。奥ようう服へ出させひ。友達ぬる行て新こ出をんべくるる西す
ぐべ。原こんなひこりこ新こ出りくるぬくふこわくあれいう家へこうを
ぬとこう。川ぬを行くべ新こ出ぬもいこべ。原の新をんくふいを
ふうり切。増。うこくんりるこれハこてこ出ぬをイトりあれこ出ぬ原れを
新ぬひこりこ新こ出ぬこいぬ。ぬるくこ新こ出ぬ。ぬ原
原又原の新をここあここうりりイトくいるかくこのかく家ぬ。紙
一人くぬて風あるぬ新く同くくふりぬこいるぬ新ちんこふす
今いこ本引こるこるこ出ぬこと。ぬ川こ出ぬ馬ぬ。ぬく新こ出ぬ
ぬこいこんぬ出ぬこ。ぬこひぬ出ぬこを原の新をんこ

ほのぼのといるが暮く。今ぞくべかりけるのれを大面しいかりくれば。
こゝはらのゝ名ゐかゝれれを紙あの川さらと面ゆくなりのみ紙ゐを
かゆりのれをとゝくゝれし歌けるし
一日曇二年丙申ゝれへ糸い女郎のさげ髪へ結ゐて今ゐ。移本
金化とゐ女郎。さげ髪ゐて結ゐ髪へ出ゝと城髪ゐて窓とゐ編
紙さし式ぬゝゝ糸ゐゐて。京れゐぶゝ芝居ゐ手伝ゐ行ゐ
られゝゝぶれゝゝ京れ芝居ゐ村山又ゐとゐゐ。芝居ゐ歌
絵の郎ゐゐ屋敷へ出ゐゐ十余年ゐれゐゐゐゐ上ゐゐ
又ゐ京ゐ名ゐへゐかゐゐ。ゐ屋敷の表ゐ紀州ゐ毎日郎ゐ出ゐ
面ゐゐ上ゐ行ゐ。ゐ歌ゐ演ゐ。やせゐれゐ。ゐのゐゐ

なりゐとゐゐのゐ行ゐ芝ゐ
小ゐ名ゐ。ゐ面ゐゐゐのゐ人職人ゐ。ゐの代ゐ
鶴ゐゐゐ出ゐして今ゐゐ屋敷の表ゐゐゐゐゐ
みゐ芝居ゐ四十三ゐ。寛文八年戊申ゐ芝居ゐ
なゐれ。三月初日ゐ再興の初日出ゐ。ゐれゐゐゐ
不ゐ日ゐゐゐゐれゐ。京ゐ面ゐゐゐ
初日ゐ出ゐ十三ゐ。ゐ面ゐゐゐ
乃服ゐ芝居ゐ述ゐ。村山氏の大功後世の紀ゐゐ
事ゐゐ
一俳諧ゐの初ゐ今ゐゐ門の風ゐれ遠ゐ先ゐ

出て。ぢ今けいせい雲の打ちとりあれて。村松八郎兵衛といふ
立役。雲人ちそ。山出立のかなえの。高砂よ。浦舟。そ。麻の葉を。
乃きしらの。ぢ。ゆうく。一人七すの。踊りとを。四人。
小ぬさ。たいこ。ひぢ。右の。ほ。扇の要をつまで。踊かるこか
ゆうくと。出。四番。ちうこ。ちうふよ。
八ま人。ぢ。雲人。でやとと。扇をそ。踊さーの。橋をたくけべ。ぢん和
一同。ぢ。や。雲人の。名人。が。出さ。ひ。ちく。ふ。巻ちす。踊くいと。
ちべ。ま。ひ。時よ。ちく。ひ。ゆう。ぢ。より。踊々の。ちる。右を。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
踊をねら。ぢ。ぢ。ぢ。ひと。踊ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

福岡弥五四郎述

あや先こそ

ちゝ沢氏ゝ京今女形のよすがれる方。あゝ見へ
ちゝ成安侍く。又ゝ自らはるゝ弱のこと
書毒ゝ事三十ケ条ゝ成めるゝ
あや先こそ
和しゝ人ゝりゝ甚ケ条たゝしゝ
一或女形ゝ沢氏小四郎ゝ
作やゝ沢氏のいゝく。女形ゝいで弱るゝよく

分のすハ皆我やとり。そもそもけい古ごと男ある所。さいと
きるゝことハ生れ付く所なれ共。男ハ男ハ男ハ男ハ
乃あるゝ所ハ。ぶんじゆうとゝる事ハ。よくくのん
がけるゝそいなりべ。されでハけのやのふくの絵書成半一
にせ〻れ屋〻とゞ
一宮流をゝ書ゝと書ゝる成。女ハの名よハけうすだ
ゝる流乃なとゝ。ゝ沢ゐけんふく宮流と書ゝれゝう。
宮流あるゝき狂言の仕様をゝれゝよゝ。沢氏曰
家発の女房して敵役をきゝる付。武士の妻ゐれべと

れゝふんあるゝ。力のゝゝ成ゝ。ゝ力ゝれゝ。ゝれゝ
ものゝ。武士の女房ゐれべゝ。ゝ力成さ洒ふ
あゝ孫ば。力ゝ成ゝ。ゝ力ゝ成さ洒ふ
力をれゝれゝ。ゝふ斗ゞ仕洒ゝ。
いゝゝぶゝの成ゝのゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。
立役なるべゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。
一右沢氏の曰女形の仕様ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。
ゝべゝ。ゝ成ゝ。武士乃ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。
べゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。ゝ成ゝ。

らうにもぐーとぐ

一中の巻に吉沢氏と和ぐれーの時ところ〻けと公
され〻まべ。吉沢氏無成元稀れさう。こゝ家ついく
女形を此をもるくれくこゝさてくつまゝあやもろこ入
こう。雪須人易く殺をもとのねらぐくとびくこ成
せれよう。後は行留氏ゐこゝつあひく。あや先ゝを
名人ありとやされもかゝれこまでにだしるゝふう
かるゝ也ゝるり

一十郎帝やされ〻ゝ。弁ゝ大の膝成ゝて男いたの膝

を立れ。あゐ出ゝもあゐ。来ゝで。弟ゐのくれくられ
しもゝあゐ色ゝるゝ成。吉沢氏ゐゝをたねけんせれるゝ
ゝれゝゝを色ゝなれども。乃ゐ元の方へむうゐ方の彩ざ
をゝゝび。乃人にゝるべーゐ屋ぐゝにくゝ武蔵
ふあゐべ。かく寛ゝうぐきゝまふくゝにゝるゐよかん
ゝぐ十ゐゝをゝれゝう乃人くゝぐのゝせれゐ
一武士の女房ふあて刀成ゐ白ゝす。大ゐにゝれこゝゝと。
たゝくべゐ姫ゐをかぐゐくれ仕角ゐ。ゝを男ゐゝうに
刀成さぐく殺ゝ。ゝゝを大すゝ忠義のんせるゝれゝ。

さたぐものふれ妻なり。元義ふく歌仮式こゝあれた
いまぐやんのけまるまたあべ。かさぐれたれば。やうかを
かゝ。さいく玉ぬくの物なり式生ゝ。これハ玉ぐゝん
大磨ふれこゝれる仕角。かゝるこれの長ゝんとゝくゝう
一女形ゝをぐゝゝれり。ゝゝうゝ生れ生ゝうけたゝき女
形ゝゝゝ。ゝ白ゝ式ゝゝれたゝせんゝゝれば色ぐゝしべ
又ゝ式ゝくふゆのたゝんゝをばいゝたくべ。それ色
年生式ゝなぐけくゝゝよべ。よゝの女形ゝゝいゝれ
かゝ。ぶゝくゝゝゝ。ゝゝをゝのかゝれ形。ゝふ仏ぐ

けくゝぐ男にゝる和ゝり。常ぐゝすゝとゝるゝ。さいく
ゝゝれなり

一歌仮式きゝけけゝゝる。ゝゝ。ゝゝハ女形の仏ゝめゝく
ゝゝ年ゝゝくゝ。ゝれ式仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぐあゝべ。甚仏式けゝゝゝなゝ。かゝ仏をゝゝく
仏式ゝれぐ。ゝん和ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのれゝ。ゝれゝゝゝゝゝゝ歌仏ゝよハかゝべき女ぐ
ゝゝれゆゝ。ゝれゝぐゝゝゝゝゝれゝゝれ。ゝれゝ和
へれゝゝ式ゝゝ。ゝゝゝ和ゝゝ式ゝゝぐゝハ女

形の麿所なり。はのまへ爺ゆるゐ侍ぞめぐ
一あくめ十はちへうされ成笑くめうんでうさ
うけをうそめぐ。まうれがするん形成
止めぬく佐角ふくまぐんとれうがうよう。れしが
とるへ女の情ぬあぐちん十はゆかしう成そ
られる形なるが。そけうつたあく。なや兵へは
左のまり形とあうとうれうり
一女形ふく居なぐ。立役ぬいうべうさいうへ
和のうぐなり。女形うう立役くなをんで立役ふく

うもかをうをいはれる。女形のはうるうれぐ。立役
にまいくあれる。女形のはうるうれぐ。
が。あや兵立役ぬあれくうるうてるかしなり。女
男はなれ形身うりはあるとかんぐはうれ
一女形ふくあるが。そ一うれぐゆうぐ立役まんと
うふあ侍はくがいれや。藍ぬうりはるり。はんう
それぐが。れくうはうるれてがてんうぐ。うんの女
をうやうれぐんうをあうそ。男にあれぐうそのん
ふくへ女の情ぬうはれぐ。ぬうれもむぐう

一女形ふく大屋のふくゑ。まよ成かたりて。まゑさげく
とりつゆゆゆる。女衆きの仕ほのるゆいりとれね
ゆるとべ。ゆいりとそい男れ家をがわし成ゑさ
ゆふ成屋。ゆとを大ゆ立合の西へいりて赤ゑの女房
りきべとて。んゆくやれ形ゆ。ゆをもゆるゆりて
あべるくかりて。歌屋がどりゆとはうんべ立ゑ成いりさ仕
ゆべ。ゆわるきゆりとりべ。女をゑ成ゆるゆをゆ
ゆりいゆ立ゑ成いりゆのゆり。ゆをゆれゆ
ゆりて。ゆりをとりべ。

一女形ゆ屋女成みべきゆゆいりべ仕ゆり。ゑ成ゆく
りんの女をゆゆりべ。ゆ形成合ゑをべ。いりゆりて寄
ゆ立べきゆゆゆゆゆゆいりゆ屋。女形ゆり仕成いべる
ゆりゆゆる山屋がゆ一ゆ成ゆ。ゆりゆ立べ屋ゆゆ
一本屋ゆきゆゆゆの成ゆり。ゆを仕ゆゆの立ゆり。本仕
ゆゆのゆべしかんゆ成のゆゆりゆ。ゆ成ゆ成ゆ成
べゆりゆんゆ立ゆ成ゆべるゆゆりゆべ。屋ゆ女
りべゆりゆゆ成ゆべ。ゆ屋の工夫りゆ仕ゆゆ立ゆ。
成のゆゆゆ立ゆゆゆべ。ゆ成ゆゆりて成成

あらくぞのさまかくかきたれ
一家すたれたるなりゆめうしとして大なる家
ゆゑかのぞのもとにたちたるなりゆめうしとして
なびきたるこゑとたちたるなりゆめうしとせひで
るがねみてこゑにいふやうなりたること
一人の金成かくこゑにたちひとせびて家成かのぞのもの
たちを求ちゆるくしまに人をおもひたる事
をかまひびれひとり南うしまに人をれどよるこゑのはな
が同じまれりゆめかくこゑ人のうしろ後をうづ

わるくなるはなちこゑ人まはあくるとゆめうしまの
さまをげしもなかりしとたれ
一たるこゑをけれやうにおもひのうしと
方成さんにたるがよくあやまちうしを鶏をゆれ
に沒し方成さんにおもひとそれいわるこに
こゑをくいふゆめ我が南うしまにくんがけれこゑにより
あるこゑに結さんにゆめあくうへあくこゑ金成の
人がくみあくりのうしくれん
一あゆ先ちたれゆめ初のようにうしまふそこ。

結髪して中せり付よりて揚屋町よりつるの世話よりあり
あるいは中の町に冊別乗の仕事にて宵酒なる
遊人いうふ分別ある人なりしが。後をよく考へ親
方ハ是を傾城方にてあり。しかるに人に対面せて中
さらあいくよりあるなつ城あるよりつる幸あるも。
後のこと後成あるのれけ中やされたこ二人なれ
どもあるなつ人なる。女郎の仕用より対面べし。
大概人なれ対面とかのすいりつるなんげ
あまだ本性の仕用のんでけがあるよめべし。そと後いつ

このいなる仕用ハ世ハ対面のあり方ハ
あまでで仕用ハ対面とハ成。又しても面倒すぐ仕ハ対面
うかぶ方の辞ものよりさるるよ後ハ対面
たくさんにて仕ハ成ものをくれるざるるうつ
あらたつ仕ハ成。こたつ方ハ成出。衣
用あるなて。後ハ仕ハあるやうふく。一ハ出。衣用ハ仕
まけるるよ方なしたし。衣用ハ小出ハ仕ハ方
に後ハ成ハ対面ハ仕ハ面ハ出でさく
あり後ハ対面ハ又地の仕用ハ対面

を打て勤し。いにしへ人ぐわつ名成たれ。高位にいたり
あくぬる人も多くぬて。今ちとせ経ても世あらじ。さてあら
ゆる人なの名ぶ名の尊きこと。此人ひとり独がごとく。
我身あるを惜やとしたきぶ。ゆるなのかく成ぬるこそ
程七とはさることなれ。ゆるにてあるべき事
一ぢ式おもはれる付。そのひとをよるふるまひは
さるべき。義去のたしなみあり
一位たるかへりみるまひよりしたる三八ぐわつに角ひげを
いうなれども。ちと新町くるいにて。たまめてのぼらん

あるべしめ手生へしたるもの。絵ゆうりきなの
あるもいあひ生人のたまの紙なり。只今へよりでそれ
よりこれらるる風なれども法見物ちれ式見くゆる。
風があのいなんのもとよりあたるよ。ぶゆ。
赤ーさうたまへうもと物ゆるがうし。ふりさあのの見
ちれわで風絵が物ゆるるこそ。一年手まんをふりとうん
しゆるべし。よれ中ゆ見人ゆ見ん足そんつきたり。あのまま
をけるこそ。世手生人の風よ絵ゆいけのもいた風そ
だくゆるべよりゆ角ゆへ角無とそるべよりし。

人間ようかうふしぎゃうれいぞ行ちがひの事やふうぞへ
南世ふてうとあれ。ふてうのちぶかんとうれと
あや免ものかうたなうり
一仕角ぐらなるはぐくあるもの。その仕去ハうまれあるこの
ぬりこぐちうなくとうれし。海りうるかくぬきべうまへ
とうう色。仕角よりはぐはうこうこうこうこう
一女郎をかくをふうも。女郎こいるの公ぬわぐ。矢南なぐも
人のこうあうさへしうをて飛ぐとうべ。ふうる師のうなと
ちうびくしうとと抽ぬくひ。梅ゆうてふうの人出て。ふる武
きうぬうの立なうんぐうりうこひつくんぬうりれ色へうぐひ
にふうぬれうぐ
一女郎をかうあるぬかしぐ。ふて。ぬ角ぬ抽がと人のいふ
時をあうをあうむうるうくうんたうまうべ立角もせん
ぬうふをいくうりをを残もあ仕ぬたうん。よるう乃
月抽をいふうの抽うりぐて
一あや免ようれうぬ。ふるうるへうの今武ふたりして
いうくのめぐりきうぬあり。ううぐ今い梅のさうも
なうぬ。梅い免ぐぬしかぐぐうて。ふるもうもあ梅うぬをありて

尺余の元長寸にてうづがうるし。紙条に梅の花
よくとりたるのこと。海のうりあるとふれるをみて
佳之のよるうるかんでれ。佳角もその梅の枝にて。女郎を
女の情をとびうるやうに。るが梅の枝にうめづしく
せんとそれるこそ。けるよい長枝をせべる長枝さ
ぬなれば。ついるるようにもいれまぐれあり
一玉川半左衛門よりもどりもどる成佳角みて名
をなるる人なり。ものみ所の所はよりまでも曲がるそ
海の。尺れるこれ。ひるを。でき事とぞ

一小勘左衛門せんたのもとにて櫛式たるく瀧あり。去
とし尺長寸くしの人くのうんせんたるなりしてのを分て
ちくうるあるをしふ。掛佳角ちり会ぐわけて俄よ七ぶ
ぐりを佳角ちるるるるる。それるう又櫛をたるのく
ちれるいくるるよりうる紙よりる会ぐ出るるる。ちるれるる
瀧といるるのいのき事ぬるるるる。ちるるる
来せるぐいるるのいのるる事ありるるぞ
一沢村山佳角の元紙にて。長田孫十郎芝居ちる。つぐ名ち
紙方ちる文一佳るる事。小佳角の佳を九てるつぐ名方へ

きくるを。流をなぐ。同じ所に所所にて七と。後の付合
乃所へ。女郎花の小勢にみへ。あぐらの事あり。さて
歌仮名遣の事有りつるけまへ。さぞ門ちがう
ゲうでてんぐ。なんてこねさせどよりのいとぶたれ
なれどして。色成とする我成とぞつらわとうるれせ
ず後。そこを明るよりこの所へ行いつく。出海ぎこの後
この句をば久しくする。れこのせりあるとぞつらわと
いつぶ。久の陸よ為てある公入。今付の所元品へもよりば
一紙に世界色とたして。所所へ大和色あるこれ有りしか

京仮名十帝京名つ所まで出名つと十七一時ばかり。一西に
行ぐきこぐ成。夷屋京名くあるて京名にせんとのるも
出名つい別よるあるあ結ようり。屋こみこ口ぐ者あ人早出
成くこみこり。屋こ和い夷屋京名のせこくなれども。
出名つと入名りの句をとりて。屋こ和をとこ
けかしてこと夷屋京名く。義世あるこ世西名つ西
を抱へ。こ結よ十に京名かをんをかくこり。けよ義十帝
ここ結こ。今京名の芝居こ乗乃円。夷屋京名こ
出名つとのこたこと乗たこみあり。義川

武蔵つ美のくにぐに長十郎のこと。山方さと長さと仕事と
ものまねいたしまつり。ほうかと長くとしてあり。かぶる
牛角おれば。二形いたり合ふ。ほうかと長くなる。和たり
万ちよ長くなる。中村にらめ。武蔵長役のかしらにて。
生形新めさ古今新ものこと。城ちつ如形を雪後あり。
海尾十郎ほうで。ちごめが。ぶつり。山ちと長くものの
あり。二形いたり合まけまつり。万ちよ長く振ものに
鬼武出たなるべし。長ぶこと。ちぶるくあり武ちくに
ゆく。あゆくにくあり。これ形ちの仕内ものの一のんるの

とあり。果くちの手万ちよ長く大入ものこと二形いたり
かうるゆく。長年やきぶ。外くぶいろく形ちのおぼめを。
後十郎いつきいやくちく武ちくあくとて。長十郎武
山形おりぶ乃物よ仕立。新よりあかぶんをおくれりて。おて
長長ぶの大入。長十郎物て地の舞義へ出れりとき
ゆくぶ村少長形おくのゆ。ものるし。新仕立へ大仕武
さちく入をとれ工まちくて仕内くられ武ちくべ。
ちくぶく手ぶ長さ事と。あやえの物ぶくりるを
一女形くいつものちくにて千ちぶてちち美女形といふ高ち。

なぐ女形とぐるもいつぐ屋きぶ所をいつまれそそ
くるたくさんやうなるぶのわけわるしにさぐしぶう
あるすめぐ此者をいつる。女形のたるれるるし
つたよしと徒名の人くとまれ武生ぶうし

なのや兵州伝

耳塵集上之巻

今の欲棄妓の名護屋こうといふ信人より
始りしとかりいそれへ

雍州府志巻八十章之内

一又一往宗妓といふ者ありこれ出雲大社の巫女巫女と
號するものあり。神楽とし物して欲棄とぞ古に所倡
白拍子類みて是神楽の変風なり。永禄年中
名護屋三右衛門といふ者ありて元武人にして落魂生や
京師ふるくく幻出女と密ふ毋ぶ若ふ古を深く欲棄

ぬの曲となりたるとぞ

雍州府志

必能院敬信

用書

一ゝ下京なる人の曰、坂田義十郎に天性の名人にて、手法
のみ義光のゆるしなる名人、今よしといえども立役の
中に義十郎ほどの義光一人も有べきとおもはれぬ。
我も又及ばぬ。然ども天性の名人なるが故、節を師匠
のみにめまぐるしやそなたなるとて、師匠
にくもあまきなるべくに枝と枝づたをあんずふ作と
なりしるが如し。天性なりしるが如し

ぶくしゝ系のようにひとと移りぶくしゝ能義にいたるとなり。そもそも世人今の上よりとかくと移りたる能義
にしる事と号ゝ来みにをしゆるあり。若ふ師匠
とそなるべし。天性の名人はれなるの名人なるあ。我
移りたるなるべし。我人と移りきれひ
ず紙ちゝ。若ふ師匠ふのまれ使きなり
一又曰、実すとしてとなるといえども
和ふの義光もその技云ふ節といふ使ふ
いきんやとなるや作なるべしきすんこれ耳にて

無うしやうふくとていて給ひたるあまごゝ義十郎ごく
実といふく給ひたる義若いあるべし

一坂田義十郎曰おりをすぐ実事こゝろふある事紙するが
おなりゝの義若が実すどりるふ毛にそりとうち
無ところをとけき合やあけぬんなれ信合。実れ
侍のらべき業なるべ此公四人せりゝだをもみゝたふ図。
ををして実すといふ合れを
一又曰身ぢりのうゝあとは係をる義若あり左人物ま
見ぢりのたんびおりをんよりたいよりんん。事ハ此係なり。

身ぢりとて仕ぢくするにあるゝど。身ぢりいるゝ後ぢあまり
みゝてぢ後ぢいるゝあるとれ公身にあるゝ。
物ぢるふ行ぢ身ぢりとて和にあるんや
一武義若義十郎に白ふ者ぢ辰信義達ゝ後ぢ中にかたあ
ぢ和のあぢ名人ぢりゝとあるる義十郎曰ぢ和あぢ
とは行のすなるや。事ハぢ和ぢ和ぢとるゝもるゝ
実ぢりゝくまんぢくに和ぢと和ぢ道和もふ和ぢとぢどのづゝ
あゝになるゝあぢゝあるふ行ぢ後ぢてべぢ和ぢ和ぢの
和ぢて和ぢるものなり

とくゝ乃和師と狂歌と大ゑにけりくせんと皆人ゝ
一大坂道頓堀にて鉢を能あるゝ付。京より和や歌ゝ
とて名人の小歌を書用と新もゝに諸人こぞりてもを
ぢくゝなどとゝかゝしゝもさもおどろくど。則神ゝ
なりゝた。茂十郎ゝ茂ゝゝ才ゝ抜み三の歌有。名義ゝ
月紀して諸人の評判と皆ぞくに成ゝ猿岩へ見ぬ
乃能大坂ゝ京中のゝざしてゝ一人ゝ成ふゝ乃
ゝ先ゝゝゝもゝゝ能あるゝ成ゝ成ゝ乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝ能ゝ。蒙のごとく二日ゝ日市中

乃よゝゝゝ先ゝゝ。茂十郎ゝ今日の評判格ゝ行と
ゝ歌と狂歌ゝゝゝゝゝゝ成ゝ茂ゝ日稽ゝ大ゑ
ゝ自分ゝ狂ゝする狂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。今日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

そ[illegible]。我住吉の[illegible]より今日[illegible]仕[illegible]る
狂言と今日はいしんあてでんぽう日のめくやでんと考く[illegible]
[illegible]くまへてでり。其[illegible]あ[illegible]を狂言の[illegible]を古和日は
おもも我をせりふそへ[illegible]が更狂言より仕[illegible]
をうらくせんとへかすんぐ。なりく仕[illegible]る狂言を格[illegible]。
まを更へ[illegible]る狂言とれおよ笑いせる[illegible]老へけふなり[illegible]
やとなり
一武[illegible]老[illegible]十郎ふ問くは。我も人を神ふへせりふ[illegible]
[illegible]へ[illegible]十日[illegible]仕[illegible]る

狂言[illegible]なり。[illegible]へ[illegible]
[illegible]くは我も和日へ問[illegible]
仕[illegible]る狂言[illegible]
[illegible]へ神[illegible]
を[illegible]。[illegible]
人と[illegible]。[illegible]
なり。[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

一こゝ安芸に近こゝる能の能師名人のこゝにて大江能師
にて能を能ひ能ひ所神日ある安芸能いでたりしかぞいふ
出ぬ所ふみぐも能所の神くぢ能ひて京より津田三郎といふ
能師名人にて能ひ所ふみぐも安芸をにしりしかの能所第
猶の月面に月ひる神日猶ひ能ひ今日にこんぐこゝにて能ひる。
神ひ能ひ能ひる神日ひたすなりぬやと考へあり。安芸を
考へ日神日ひたすれもものにくいあるべたすれ考ひ能ひた
にあり。考ひの所縄と人能ひ人四神日にこすれく出ひかなり。
神日とたるもとあり人能ひ能ひ義ふあるべく考人名ひべこ考感と

人能ひなり。手ひあり人ひ月能ひ能ひ能ひて
能ひ考ひと仕ひ人ひあるしき能ひ神ひふやひふとこすれく
出ひとひひ行ひと安ひを神ひへひとれく出ひとこひへ
ひ行ひも同ひや。名人の同ひを月能ひ考ひと
一或人能ひ神ひ同ひ日ひやひふへひやにひひひやひひと
ひと能ひひやひ考て日ひやひひひかひたすなり。ひて
ひひひひ能ひとひひ手あり同ひひ後ひ西
なひべあひこへひひひを中のひひ能ひ
一浄ひり東加賀掾才の芸人合て日。師匠の浄ひて。

物一所よりべ物くゝ月和ともる。家くへ行れど節とのゝら
てもかゝる事なり。されどてゝ家ゝ行るゝもあるゝど
師匠のゝ子弟とゝくすゝひくゝ仕ごもあざるゝ分ゝ
とゝへべが賀孫打弟ひさゝ少ていあゝど。我へ行とゝなく深ゝら
とすゝほゝ後ゝ一所ゝ仕くゝ物とゝるゝ。おゝ物並へ深ゝるゝと
ゝゝら出ゝいすゝやゝゝらゝまんとおゝひ和ゝ物ゝ後ゝまゝく
南ゝくゝゝらゝ。ゝ一所ゝふゝくゝもゝゝ物ゝゝくゝふ
ゝな弟へ小巻ゝ所ゝるゝ。光一ゝゝらゝまんとゝゝて後ゝゝへ
ゝゝとゝゝら

一耳底記ハ細川幽斎の口ぱゝらさゝんとするへゝゝる義や
一茂十郎口ぱゝらゝまんとおゝゝぐ。ん和とゝゝ和ゝと後の
爲ゝふ南ゝくゝゝゝゝゝゝ
一又曰荒二郎ゝ名人なり。性格ゝすゝ和言ふゝゝゝ
ゝくゝゝゝゝゝゝ

うてらうき狂言の仕様ふて志ろ名人なり。義太郎を
始めて同名人なり。ろく義太郎と三笑と和人を
一所にして仕習うんとおもしい情を出すうとすり
一式附十二段狂言仕組の附浄るりと西ろ義太夫十五段
神霊源次せりふの附義太郎西源次相言れ仕方伝ぶ。
千寿へ浄るり西ろまて引ぶ源次へ義太郎義太郎なり。
物ろに今狂言の仕様を後のうけ人へど相伝に成ぶ二段の
義太郎義太郎より三三寿月。伝ぶその義太郎義太郎仕様
てくまたんぶ。屋の伝が義太郎へ義太郎仕うんとおりて

浄るり西ろ義太郎へ義太郎義太郎うろ行ぶその義太郎とつけ。
義太郎らく能とれ伝ぶ西ろ仕様ろもあん。義太郎の西ろて
義太郎仕うんとおもて義太郎あるど。本より浄るり西ろ
義太郎なぶ。今義太郎義太郎へ義太郎へ浄るり
和なりと志ろ仕ぶ。一段の人へ盛伝源次あやまりね
一佛ろ原三ノ後の狂言ふ梅房義太郎かしろ奥引とつ
女ろと。義太郎月宮志ろつが女房ふ浄るりろ。月ろ義太郎
どもいまぶ極ぶなぶ。義太郎義太郎へ浄るり。
とぶどと義太郎義太郎へ義太郎義太郎へ義太郎義太郎が

おもん雨をうづ。奥引ふ寒月をうんとはおりぐ。
人ちといとしい長袖よりあびうづきとうて女の姿にうなとおく
笑ひ者つが面白く一志のびく奥刀に出合右いうんせうぐ奥引
大きふうとうとを極とうすびゆうがなうべまいぐ八郎左衛門と
祝の借ちうきぐ女房にやつて寄くいうぐ西氣ぐうい
ふく沼袋のまといべ交流ふ後とおうこれいうまぐ
おまうをばふをなすうん今お陸紙とう奥引とうを四谷
新屋敷とうんとぐてもなうれ申ふいうくと陸とへうをて
おうを半ひて文鶴ぐ神田七月十日月番おうの

ちをおいたいうておけよりしとはいいひて家
狂をはけもなおりしが芝居をて三月十郎のうに孔ふり
き反今日おうき限りうに孔が後合ぐくやうふをを
うどもぐん和ををはぐいかなりぐやりぬ望ふちおをれ
おりといべぐやくいうの狂をの仕組ありとぐ上うる人ぬとひ
ぬくしてみうぐがのおうきぐん大きにおり後ぐ月十郎
うぐおくとおくいうとぐを言小月十郎四月ふく大文字
月和ふをうんををひいを上より。扇く明るうを表ひ借りを
ちくとやうをとつををへなをれいぐ。ぐの世とうを市中を

ちぐひ七月の月はなはだきぐんえんとしてしぐれ
しりへすゝぶ茂すゝがさへにくれにおくれさるかや。
ちぐ奥引がものあとをなんがちふいろくと侍どろもとを
その氣とおもはるとしがようとゝ丈にて今るいまくさり
ふとなぐくはをてせにてにおんのだくすぐくといまく
すゝさりぷとく本かが大なりぷ面身ぷ子示なりしがいま
ほぐくあぐくね氣ぷりふあぐくね事とくやまれね

耳塵集上之巻終

耳塵集下之巻

一古冠之事に酒を好ぐ者なく奉巻ゆても徒乃
酒をのまるゝ中ふんゆ拙く名人ゆと参る人ゆ
ゝ人ゆ人ゆ交ゆと義八徒ゆくはゝゝ不実にも徒ゆれ
ゝゆゆなると定てあれもゆく徒ゆて侍れゝふらんと
参ひぬ

一式義去十二三ゆ之ゆの拙とゆふに仕者のなゝゝひ
でもくゝゆぐゝゆた太義紹くゆをかもくいまゝゝひで

もくろみ[illegible]ばかりにて[illegible]ば長十郎出て[illegible]くさんにあらず。
伊勢の藝人[illegible]今[illegible]小[illegible]高[illegible]入まへ[illegible]行ふくも
見物[illegible]来[illegible]ひろひ[illegible]出て[illegible]ゆ[illegible]ろ[illegible]ぶ[illegible]ろ[illegible]へ[illegible]あ[illegible]ろ[illegible]園
にて[illegible]ぶ[illegible]ろ[illegible]ものかとして[illegible]入れば出[illegible]ば[illegible]。[illegible]ろ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ものの中[illegible]切れ[illegible]花[illegible]ろも[illegible]ん[illegible]人[illegible]
一式藝者曰[illegible]伊勢の藝[illegible]ん[illegible]人[illegible]修[illegible]
[illegible]ろく[illegible]ん[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]覚て[illegible]
一耳底紀細川幽斎曰一曽が[illegible]小笛[illegible]伊[illegible]
[illegible]

[illegible]。一曽が曰[illegible]ゆ[illegible]ろ[illegible]。
又[illegible]人[illegible]ろ[illegible]ば[illegible]人[illegible]
一中川全[illegible]藝者[illegible]藝者が名人[illegible]
[illegible]名人全[illegible]戸[illegible]て曰人[illegible]藝者出る
度毎[illegible]ん[illegible]ぬ[illegible]ん[illegible]ぬ[illegible]
なり。一説二説外[illegible]全[illegible]入。[illegible]言[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
一或人香[illegible]侍[illegible]て[illegible]
[illegible]ん[illegible]藝者[illegible]

あるんぞ。ちゝ母にすゝる義老の徒なるんと同しゝ。例なる
人家も多知らぬや
一芸本色業今多六ちつへ員の名人なり。六ちつ四員
とて力と杖ふつゝと点ぞ。ちく若ぞふすゝ計にくゝ
ゆまぐく。かゝきいまぐ名をゝ。法多乳ハ
法りにまに眠とくぐゝ。ちゝも法とんて若ふせね所
ぶゝ。みかゝ迎ゆゝるゝ。おゝで神くゝ元若にする体。
み味あゝけ有毒ぞにくゝ法き事といひぐゝ。ゝめ
ぐゝ乳ゆゝあゝよゝるゝ。ちゝ員の名力と杖ふはく

ゝも小見にあゝき刻く力と杖ふつゝ人あゝく。力と杖り
法ぐ二見ゝ二見もあゝた。力と見本より二三人先つゝ
ゝ。ゝ化も力に二見ゝ二見ゝ先人あゝたゝ。みたのだゝく
力と二ゝ人ゝ力ど先ゝ法ゝゝ。ゝ法ゝ法ゝ。力れゝ法ハはゝを
小乳切ゝゝ力ゝ。力ゝゝ力ゝを化ハ脇ゝゝて法ゝとゝゝ。
力ゝ法ん味ゝ味ゝゝゝゝ。ゝ法ゝ員ゝて法ゝハゝ
一京ゝゝ口義ハ狂言れゝゝあゝゝゝ力一ゝ人ん
ゝで殺ゝゝゝ。ゝ化ハ六ゝゝの狂言ゝ十分ゝ
ゝあゝゝく家ゝゝゝ拾ゝゝゝゝ

一茂田小平次へ言すて名とはし義者なるしが。或時刀は
ゑりと打出おるの目はなれ中とはこれ付ろうがようといつて
一仙碁はなしをせとつて道和尚系教ふくゑ信徒とをる。道
をはなしなしに。手ろを仕習の時分。行ごまくへはなしを七行の
義者ふかめてとおりへて居るに。わ掘。茂十郎四一向ろを
はるとも必はなしをせまるとといつてとゞうぞ。をれへは行れ
ふ号今大原様ろ死去をすれと笑て居くなど給く。
はなをろをれて面をこがう森耳へ牛ゆへ入ろ拵をするふ
といつて。ふ郎のへまりきを牛く。先道和の

役へいつとても不須は義者なるなり。行くへ牛が
入ろとゝ或へ去彼ゆうなどの師の腔にすり。たとへ師すり
とも去原死去とをて行耳へうゞが入ろとゝいつてゞうど。
行ろへ入ろとゝいつへ入ろなり。回へ行耳へ入の入ろ拵ふ
すとつて給ちてとゝいつろ。手が回ろ拵ふとゞ見ぶつ
郎ゆうまゞとゞせうどゞそこが工夫なりゝ示にゝつく
ろうへべゝとなりゝ。ゝ後手がせりふをゝ今奥拵
若若様と歩絶せなゝ行ゝといつと笑く面をゝ三寶
行耳へろゞへろせうをゝいつひゝて大ゝ示給ね。

かゆうのすりふを格別よめりしとぞ世相ぶ吟味なる
一武家和ふはんがうの人くに寄合くに咄ふ人のはえと
ふんくに咄ふとくと寄ふとなり
一大ほうきやとつふ狂をふ茂さ和なるもしご目
のゑとまん中にかけべあるさだへの相ふんあるとく
一村れとつふ狂言ふ茂さ和ふ庵が狂ふ和ふんあ和庵
茂毎よふんあ和ふ寄ふ茂則能狂ふふく伊利宜茂也。
和人神日の衣恨ふ切。庵ちふ出来ふとほちふ茂さん
ふとと切ど。ふ茂庵とせんとちふ狂ふのちふふ

つりの狂ふふ茂さふかいふくりのといふふ。ふ茂ふ庵ふ和ふ
幸ふ去ふくと切ふて茂ふ俗の幸中とおふを見和ふ注せん
とおふふふ。今日寄ふふ。ふふふ子ふ子ふ茂ふふふふ。ふ
ふふ注せんとあんちふくなふせふふ。ある藤去めて問く
問ふふ茂ふ寄て今日の相ふ見和ふふ茂ふ。ふふく
問庵ふものふふふ我ふ庵なふとちふふ茂人のきくとふふ
くふふふふふふて庵ぬちふ仕ふとふ茂ふ成ふ
股のふ茂ふ茂ふとふふ庵ふなふ。ふ茂今員ふ庵ふど嫁茂
ふふふふふふふふふふ。ふて問狂ふ

紙中は癖の極みなるべしいつぷ言くに口の内ふくく癖ありて
ゝ不ゝ癖ゝ。口内ふくく癖ありそれ程なりぬるあいだと
いくゝ計くといふなり

一古歳こなるつわものなどの狂ひ出れば伏拉ふ。おなの侍人を
紙の内へ修羅せ。本より酒ゝ紙なる人物を出。さてふ
紙にして居るゝ。ゝ。ゝ。

ゆゑ狂歌のやり句なのさとあ至とゞ〻ぞ〻ぞ〻

一所長仁左衛門歌仮名行〳〵四日ぐらとても相場の借ぎん安
歌仮名のやりふしをくにおゐいろくゝ事があつて花さかゝみどを
それを人もおもしろがるといふ事へ歌仮名とそどいづれも
仮人相場の借ぎんあれ共豪れてなりねゝ一度の相場の借
ぎんをうるぶしでうかと入さふ
借ぎんとおもひて引くゝ念と入るなり
一富永平兵衛右ふ衛門次での俳諧ゝ今新日庵の
仮若附み相場の仮名をもつて家永安兵衛ゝ延宝年
乃蒔れ新ん世初りしがこゝあれへ仮人ちどりてゝくゝり。

まどより平兵衛ゝでこゝかり仮相場ふ月初あれそて
ね。今一八二文銭ゝ仮相場と銭ゝ仮ゝ世ゝ
平兵衛四日仮相場と出とハ銭ゝろなゝ仮。天保九
年ゝ仕合ゝり。始る文面あ仮相場と出ゝ甚
ゝ相場ふ人あゝ通仮ふ茶ゝ面ゝ
ゝいゝくゝのあ記ゝ
一ゝ飛山万灯ゝ相場の中れ口ふ尚ゝ十四仮ゝ
茶十郎山看板とゝくいゝ
小仮ゝて四。茶十郎ハ右ふ狂歌とゝく銭ゝ

看病人のくらしかたいとくるしく
いろく苦しみの和尚とくるしく
なるとて見ぬふりをして
せぎらかぬ法ふかく用はみつく
ゆへ主人の所病きわかくして
らもねつへつくものなりもつて
一宗永代奉賣の田地村方
十月廿八日切田畑
わかいてもつかぬ

ちかく新人世話きこえ
ようしに一切世話のはなしと
今日廿二三度切の義
きこえの通りの
一流仕かたちとよけれ
とかりへつ今かしこ
一家奉つ田地ふかと中へ
つまりぬすみをもつぬすく
いふす其場のさるさげ

いろいろものりう。狂言いろいろとてもかり行く出来るかぶ紙
ようなりとすり

一寛政十年四月中入ふかう役人の子。新ふくでもふるつぶがそれ
役人の事者ぬいひとて今はやせり始い次ぬいつべし。その方は
中入はは役人のすえ者ふつかいんぬ和み能方ぬんとの事なり
ちちべ者ふいつひとくとなげんとせるがようす。今いはせり始
と云ふせとい今いふせりふい別今の狂言にて居る中人
月和をのづくよくえうとなり

一或時市ヶ谷近松氏邸内侍会にて役人を

知り狂言と出ふ紙が役ようきんの狂言とかたなる
役者人い吉兵といそび狂言のようあとちうさう人へ
いつも新と月くあるに多べきてへ中にも文育みてく
狂言のふなる人へ一表ふちうと三紙が新月とちうり
きくんのくくふいちなくいもびこ伸りあそころ
表ず新月ふくあり月ぐんのようあといくぐれ。
和ちりいひ出べき事もなり。表十年四月ちんとの月ようり
繕古紙ようこ三伸ちまぬ和三月より繕古ふちりて五月
乃月ふ上の繕古ふまへ。役者月の月ようとこいてすふ

日ふ頃り義士の節今一度狂言の物と成るとさんと
ゆ一更へ入るらしぬ。狂れども古つてといそぶ木履とそ紙
傘杖まて出る狂言ありぐ樂屋番ふいしい狂言のふく
ろ者。木履とそ杖とそ傘とさ。さあてりふと狂
られまてあり。近松氏ゆ此のだくてりはと狂一座
稽古狂言。義士節日ふくよ狂言ふ。神て仕
狂言ゆ此と成てもゆ今世ものとてもいろと狂言
とそいぬ。ふれも他者の仕ふ狂言を狂言とおりへいろて
役人とよ色て出られり。狂言ゆ此のあ
かりの狂言ありぬ。義士節日ふ今れども狂言の物と
成て若衆と宮あ。狂言と成ゆ今世ふ仕者にも
如ん仕ものふ仕者ふ仕指ゆ。此てりはと狂ちん
とそひ。木履ゆとそ杖と狂よ。そてあり。立て稽古狂
てすりふ。此樣のまんとふ。狂ふ今仕ふのてりはと狂
ふ。狂て。ふくふ狂言とそ狂言ふ。角狂言ふれ稽古ふ狂
ぶく神ゆ立たりふ。とりとけ。ふりふ義士
能ふ狂言と狂へふ。とそも義士ふ狂言
のふ物と成て。狂ふ役の多ふ少ふ。狂言ふれ筋と

給ふ事なり

一京にて狂言の物と云て有ふまつとまづ狂言はかりを仕
かけ出ふしたりしやうの物なりとかたりたのしみ笑ふ人
有ける所に今て度々ありて言語の
後合ありて仕出せり物なれども事の場ふくあり
中さまざま

一義士の事同所にて金張りきれ金張りはかりを
てもかぶり又道ふ義士もあるべし。狂言作者まん
とおもひしにても拾ひんとおもひしにても拾ひ
もの仕出ふ

一ふ仕出ふ有ふ仁ふ有ふ義士の仕出ふ
おもひなるもの皆上ふ仕出ふ人ふ
いつもつぎふ仕出ふ義士の事ふ
仕出して居ふ所ふ義士ふ
稽古ふ人ふ義士ふ仕出ふ
なる事あり。或人義士の事に対して問ふ狂言の面白ふ事
ども。其仕出すくなふ事ふ掛りあしといへば義士の事
打初の狂言ふ人ふ義士の事ふ義士ふ

悪いかゝりて月和らく去れども行ひ全く義十郎と月行ひ共に居
はべるゝと狂言と見えすゝ共居くとゝ
一延宝六年の正月小彩町あふぎやゝ書ゝ有りゝ同く
二月百ゝ夕書名板の正月ゝ和頭ふく刻板同義十郎
義経伊勢ゝ書ゝ有ゝ冥ゝ有ゝ和義十郎三十二文
五月ゝ同六月小ゝの狂ゝ出ゝ正月十月百ゝ
ゝの狂ゝ出ゝ同廿九日ゝ大入ぶゝく十月中ゝ
皆ゝ狂言ゝ出ゝ正月百ゝ夕書一同名ゝ
ゝ月和小ゝ出ゝ年の四月狂ゝ

写ゝ伝ゝ事おゝて記ゝ後ゝ永六年
義月彩ゝ義十郎死ゝ年六十三歳右延宝六年
ゝ宝永六年五ゝ二十二ゝ夕書名板ゝ
正月同一月ゝ同二ゝ同七年同十二年ゝ同十七ゝ
右同ゝ狂ゝ久ゝ殺ゝ十歳ゝ又ゝ
狂ゝ出ゝ正ゝ出ゝ又ゝ博大寺伽城江戸板伽城
ゝ後の唱ゝ出ゝ仏ゝ同二ゝ後日宝生大念仏同後日
同二ゝ後日宝生大念仏同後日同二ゝ後日宝生
ゝの書ゝ出ゝ

七月小弓紙と出るなり。そい春二の春うの傾城の紙にて成一本の内に、家いでとはるし。大磯乃虎とかいてんあるこの事とそい
はるそびん一代の間仕ゆると紙なり。義経記の物語のうべし。
又拍子にてよく尽くあるなり。如今家の師に一代実事と紙
さるく和びなるんう紙に義経記と同じ仕ると紙なり。
今日なるに京をう日義経の命に名人五て紙なるに仕ると
さるく。ふるなる仕ると紙なり。ぞく義経記名参の義経者やと。
義経一の物語にいとてもしるゆるなり
一枚九三郎といひて義経の名人あり義経の命世今なり仕ゆる

九三郎ゆと仕ると紙なり。九三郎日義経の仕ると紙なり。
義経記なる紙なるなるなる女のまゝと仕るぞ義経記
男のまゝと紙なるよ今の三段と尽るに男にするぞ。
女歌ゆてもあるぞ。仕ゆるけ所ぞ。ゆると男れまゝ
と紙なるとなり。心得と云まして物語義経と仕ゆるとと。
やしとしぶ太の物と仕物一枚九三郎へ三方傳小男もうぞ。
名人と物先ら仕なり

手にとる人耳につる藝の三業さあるべんとのぞう
耳塵集ととゝづるべし

耳塵集下之巻終

續耳塵集

民屋四良五郎撰
俳名江音と云

一山本京左衛門下がりのすとりとて毎度あるりと云ふ。坂田
義十郎はいと孫がるるゐ詞ぞそれ底よりて面
白くもれり。元祖三左衛門乃和こさー合の人も一所よね
ぶりのみなどー。そもそもみそけいせん実父ーとなる程さー合
ぶりのみなりー。れもうれいこそさー合ある人乃くも居そもそ人
仕間代風流ふりく。云来ひさー合ひいねこびとやされよ
一義田小平次都ふいひりるへ力乃そりと寄り時へ左のひざ代
引。わらの月の月をふりこ付そうさされべ立流ふりとぐ

一武人坂田義十郎。切腹の時。別に出でしとき。後若乃公をうへ
いうかと問ひられば。初の腹とはそれ人が生れかはりてこそ切
腹をよ出るしといひけり。何も名人の心ばりひ拵ふべきこと
一坂田義十郎は。安和いやしきうでうひいりぞに強めぬく
一元祖沢村長十郎。後ひの時。乃中ふて枝ふりよ並木の松を
ふて回直とさけるに人は松枝ちうべーれの泳とめて。は並木の
中ふ来りあまが枝のこ死テふるとそ切ふるべーなまく手長ふ
ふる藝名ありこいこ。は松のこく都る下ふのるは恵ふ式
ふ人ふ法名ありこいいわれを
一今の歌沒ふりえこの見べかなく。ぱひんてれをするのをふかく

まる也。立役ふ又歌沒ふ表れくさるどれを表しだと人を
畸嶮の友合ひといふのあり。だびはあふそひふ出ふくへくれ
ふ式出ふくいくりまて。ふのふへふそふ式けふふの道理ふり。古斤器に
ふ松ふの庫ふ式の屋く小八我ふ立ふのふ役ふ立ふるふのふと知って
小柄ふ古ふけんふ式ふ式の立役見ふふんあくへーて。ふ式
と伝んふとひけふく彼小柄ふ伝ふふ式ふ式ふ
出ふ式ふ知く。ふふの細工ふか作ふ方切ふふれふて不めて。ふーけふへ
立役ふ伝ふふ式ふふふく出ふ式ーふ柄ふれどふふ式ふ式ふ
けふ式ふの仕用ふふく立ふあふて。大立ふふふふあり。ふふ式
けふ立上ふふふ役ふ式ふ仕用ふくふふ。役ふ仕用ふくふふ

はかりの者一たりとぎれがしらに仁右ゑ門舞基の仕用に千石五とうくらい
とりゐ。小佐川十右ゑ門八七百石五とり右ゑ門者相ゆ三百石五とり
一元組沢村長十郎組ゑよ長れのうちに長の去りの去りて後
ふそつく仕用ありて。長十郎に袴のちぐちうり出入してつくと
ゆ。なんのくもかく長れをつくしふ。坂田義十郎付いりやうも。
相く長れのつくやうなかさしちちく工夫せれとしひけまべ
長十郎ゑ和工夫しおゑ袴のりゑ出ゑ長れの傳へつくく
とゆ又袴屋袴もおゆ。ちくくさしとして長れの傳へ
より。突耳やゑゑ。内ゑ思びあるゆ考へく一強ゑつさけまべ。
義十郎ゑ出ゑ。ちちく袴屋入ゑ一人ちくべし。ゆ

られゆるとゆやゑ。ゑ出てゑ。ゑはゑ名人の差れゑるゆ
一音相ゆゑ。ゑれゆ内坂田義十郎ふのくをゑくかゑいやくくれゆくく
ゑくく相ゑ二つつゑ。ゑて以ゆ出ゆ大人の所よく生ゑ人ゆゑ名相ゆ
ゆをゑくゑてのゆ人れゆ長澤ゑ伝ゆ人義十郎ゑいゆ組ゑよくゆゆくゑゑ
坂田ゑ名のゆ新ゆ一相ゑゑ和人地義伝のゆ佛ゑ同人ゆ伝ゆ義十郎義人の
ゑゆふゑ。ゑ名組化の地義ゆゑ同ゆやくくゑゑ出ゑ相ゆ
ゆ二ついゑのいゑなゑゆゑ出ゑ一ゆゑ相ゑ。ゑ出ゑ詞ゑ二つゆゑ孫ゆゆ見相
一ゑ相ゆくゑ出ゑ上ゑのゆ人相ゑ出ゑゑゆゑ出ゑ名年記ゑ者ゑゆ
相ゑゑかんゑん出ゑ。ゑ者ゆくゑ新相ゑ出ゑゆ人坂ゑ者相四
新ゆの出ゆ。角ゑ芝居ゑ伝婚ゆゑ名大石ゑ内ゑ役ゑ面ゆ力孫ゆ役ゑ名歌

大黒座・武蔵座といつく四十七人の役者ばかりなり。
中の芝居七ツ五組兎の芝居八掛小屋なり。
ちりけるに寄ては三ツ八ツの芝居より初め百人十人ずつ集まるなり。
以前の狂言は俳優ばかりなり。
一言ばかり三ツ八ツ語りて仕舞ふなり。
今番は狂言ばかりにて仕舞ふなり。
より操でも狂言ばかりにて仕舞ふなり。
公ようなるものは初めは嘘ひるなり。
何なりとも出セ。時刻は長唄にて役者出セ。
小入あるいは中の芝居行始まる。帝ら茶屋にて大酒もりせり。

一ツおの親又方ふと。花平部も名人ばかりにて一切とられよく初しと今ハ役者
ばかりの芝居なりとか。又花平方ハ名人ばかり初むるなりとあるなり。
今戸焼といふる花平方ハ十ばかりの女の姿ひらきにて付箱ハ名人ばかり
小向ハ桜屋の下ハ五ツ。三ツ初目同名の役者ハ同人ハ時。俳優ばかり
女役の風情ハ見て後ハ人物の女ハ三ツ屋ばかりにて役者ハ名人ばかり
名人ハ三ツ役者ハ名人ばかりにて極上上吉の芝居ハ女形ばかり
一ツ一ツの役者ハ揚屋ハ出張ハ大変なり。出てしまふ。
風俗流行ありて名人ハ名人ばかりにて名人ばかりにて自
ばかりや。二ツ十七ツといふる歌ハ。小男ハ大ハ出張ハ表
と切り役者ばかりにて名人ばかりにて出張ハ流行なり。

時よりとうふかるるん

一ひとりの侍ふへ肌ぬけるるをすて大たてぬぎ公のゝ元へ上ゝをぬいこ白むくるるくりかと侍へ侍ゝこうむとうをゝひくこうにつ侍ゝ元ゝ

ゝ今ゝをゝの。侍ゝふ白ひくごに殺をゝ切るハ手紙ゝと殺ゝる人ゝ元ゝ白ひくゝと肌ゝをゝひくゝ侍ゝくゝ人ゝ白ゝるゝ元ゝ紙ゝゝ元ゝ肌ゝゝるゝ。又

りゝゝりゝゝくゝ

一侍ゝの尻ゝかゝげゝゝ。ゝ手ゝへ掃ゝ立合のゝゝ元ゝ上裾を着ゝゝゝゝむ斗ゝ。

ゝゝ白ゝ元ゝ白ゝ尻ゝゝゝ白ゝゝゝ掃ゝゝゝゝゝ白ゝゝ侍ゝ。音ゝ元ゝ裾

ゝ右ゝ引上ゝゝゝ元ゝ掃ゝ白ゝ元ゝ裾をゝゝゝゝゝ掃ゝゝ尻ゝかゝけゝゝゝ

小結川十右ゝ公ゝ右ゝ。片ゝ屋ゝ白ゝゝゝの出合ゝゝ。ゝゝ人ゝゝゝゝ男ゝゝゝゝ

白繻子ゝて三里紙とゝて。ゝのかゝりゝゝ

一ゝ元ゝの中ゝゝゝ右ゝ入ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。今の殺ゝ畑

ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

出てあり。田舎人あのやうなしくあり人いなのあるじやと仰ぐ。南北の人面文
ふ答くてこれ紙衣のそこ〳〵音のなくといへ紙衣のよろけ〳〵くとなの拙
に侍へいろわるとそいうくがてんせざりけるさんべ今ゆかれるまへ仰ぎ
ぶへ紙衣を見拙も拙しく。同しくいろ物を張りてあるげ名ぶ紙衣のこ
一金子一高日れ去あるまへ紙衣ざん答ふ我いまよりてもたるれよく物む。
その頃乗込西国北百里あるこの人。今日のうち戻れ日一ゑのこそこの方の稼人
る。又とうるるるこ多ある紙衣のざんて見るへ沙金のうえ。巻者のたるむ
だこそ。同社の人よれしくけり
一接山元たつへりゆるよ仮るる。古家ぜよく光ととぼ。人二千余貫古
奇ぜそらうて光そう。それ見元たつへりふ付よひこと。紙衣よく用ひ

たり紙名を号山とかせしく
一行器に仕つ日紙俵を仕ゆふへし。紙袋紙数袋元のそも紙ようざひ
何も文言るゑ紙袋のたりうとるるへんいかんこそめしこと也
一ある老家日紙考よ立徒あり。考紙法方のおゆもゆるされ出紙人工賣せう
きり紙と古物を見へ又勧めて腥脚をめゑ已嗜て年ろくこ西
一元紙紙元あ紙きへすりて法。一埴ゑ紙人ぜ紙よ元元紙
ちくぜりふぜロうれしよ。一見へ人ととて再迎け
いてしゑ物を紙元せうふ工夫してはうつ一えるるくゑ元の立元出る物。其
立元紙元紙仕紙しゑ中奥紙を紙ものうくあてよう。紙筆紙出せよとて
ぜりふ付のつの出ーぜ。一くゑり紙づゑ書ようぜ。紙元ゑとそうるくせるゑ金

子一高より[illegible]

一立後女形なる伊達ものあり出羽伯耆国あり。又足袋を帯よりさしこみ[illegible]
せりふ[illegible]をかりけるに。つゐ立後を女形の巻羽よりとゝ○ようく立髪迄仕[illegible]風流
[illegible]ぶら提すなるべし。[illegible]の川さあり[illegible]
の細こやしよりはじめとする[illegible]のかりもの[illegible]
ふでざんきまへ[illegible]金ゆゑの小[illegible]かるかうり[illegible]二世まで[illegible]
まれ[illegible]世も[illegible]生も[illegible]の日をぞひの[illegible]
でいある[illegible]な○又[illegible]せりふ○むりつるまんくまさんて[illegible]
なの山へ[illegible]るまのまりまれ[illegible]大内の天物いりかゝ。恵風[illegible]
[illegible]ゆきさまみる。まつとゐ[illegible]

場[illegible]
のいとあり[illegible]
[illegible]
[illegible]

賢外集

東三八述

高砂深川十五番付を東三八に頼て作る

書る一冊にて賢外といふべき事は名のり

一坂田茂十郎いけのせい実は名人。こうてこうさまれる稀人。

いつの年夕ぐれの打ちに。ふじの作兵衛初て答よ拵り。

今夜の打ちよい上手後いるもの。ぼくあはく弱くとも

つくるはざくらも外あぐうつうてんやくれで茂十郎

ぬくぬくぬくれいたくてくぬ仕なぬもぬけもぬ男中けるい

かりんのかりけすとれ弟人。遠いかさねてげとのぬ。ぬれ

大きなりといふ人いのなもい。実和方の去。これよいうれらい

さく設さんと思ふれど一ト寸もうちのさくしやうぞ
ありつゝ西一。無拙たのせりの仮ざうちのさくにぬ拵よ
ゆゝれうう。和日水同じく拵よゝみ出る楽だいに左る仮
名をつゝれうう。ありざうつゝ入すやゝうゝ。ぞ仮名けどゞ
基左言へ仕るゞ。ゝ作ゝて寿左ゝ中ゝう。あゝ人はゝを不ゝ
言にありいゝるゝゝゞ。義十ゝいゝ。はゝの第後に場金の左ゝて
わくゝすわう。舞左ゝ和ぞ拵ゝゝ左ゝゝ仮ゝ人物
義十ゝゝてゝゝうゝい紙ゝゝゝゝゝゝゝけい
せい実は拵ゝゝゝゞしゝ言ゝゝ。ぞゝう拵ゝゝゝでも
ゝ仮付。拵ゝ仕ゝる名人のゝゝゝ拵ゝの事ゝう

一切田義十郎公安ゝ紙ゝを所料ゝゝゝゝゝ。ゝれゞの左義ゝ
茶番ゝゝゝゝゝゝゝ

ゼーのくくり。たの給ふ郷をせ人。一あるして石さらう〜石。
仲の伝公のりのきん世を。時を雨をせ人。たらて歩みく
なくくくくくしかくきしいみ。石さらを徒ようせ人。人にをいん
金をふ制ちその中昇くくくしうしうとうとうとうふう一をて
をいいくり
一坂田長十郎経長の云いのくくそれ長さ五〜なくなりた。
めの付給うなの経長ふ。相のれ安徳の長石ふ安中寺門金ま
長石つ田ひくて。約仮坂りくふいぎ。家あがっざる石沢の同こ
法あふ行ふく知るやうの。入ふ和の伝て寺ひ法
やがて長長坂くその坂くて長いいくまだやそ

知くく長長一面くくれべ。どんその後ふくんの上に長一茶さん
髪ひく坂ふがくくくくくく。坂一れくむしば。法の坂り和くを
味くくくくくの坂くるくの坂ひくの中くの分和ひくと和言の名を法れ
くう。毎。和くの世新よ坂くの法をくくくゆくれ坂ひ。法長の
同長の歌くくを用和坂。部の女れ吟くに石会女坂の
ひらひも。やくう女同石の仏ひくを。それひどあり長法の
坂長なくくまくくもなり
一坂田長十郎経長くくくくくく

いの代をもとく年へくるがあるくいかく弘
餅を一枚をくらせ。水戸京紀ようれ蓋ひす戒うちう
ちうの人ぺをてれぐ者をうしけもあるべし。全く蓋ふ
あべ。蓋を者を拙をくるに右の前を紙をとしまれ
ようぺをあのくをう饗今を歯比焼しかべ有蓋をて。せ
をふ涙て笑かんべし又年ごろのをなざる中公のをを坂市
をべ来く成一日ゐくく年蓋代川かべ。芝居をへいを拙海ず
かれよ身れ蓋をを公行て。はうくに乗分に前海中れるをは
をを拙をて。ようく紙ハヤ年をるるをうをは行をれ
一中村にをうを中をうをの行ぺ。ゐト来をつ一年をを。ゐをを

京方坂大イ日ゐ中ゐをう。尺和ゐ坂田蓋ゐを京方
を色ゐ今年中和日尺和ゐ中ゐをう。ゐを行ゐいをゐ下ゐををを京方
行尺和の行ぐんをを大イに行過て。をを行ゐをを時を行ぐべ。をを
尺をを二日ゐ尺を行をををゐぺ。ぺををををを蓋ゐ中ゐ二日ゐを尺ゐ
に行ををを。京方蓋ゐをを入るを方蓋ゐ中ゐの猿蓋ゐ人ゐ比を川ゐ芝居方
ぐをを蓋屋へををを比公行をれををゐのゐをすを蓋蓋ゐ中ゐ中ゐ金へ
行京方に蓋下ゐ行ゐゐぺ行れゐ新ゐ蓋今日ゐを尺和行をを。をを行
ゐ中ゐををを。ぺををゐ中ゐ行ゐ中ゐ京方ゐを比ゐ大ゐをを蓋
居宗をを。紙ゐ中ゐ行ぐを行蓋ゐを蓋ゐ中ゐ金へゐ蓋ゐ中ゐ行ゐ中ゐ和月れ
出拙ゐをを。今日ゐ立ゐを行ゐを行ゐをを行ゐ中ゐ行ゐ中ゐ行ゐ中ゐ

はとの紙かにて及びぞ四郎右ゑもんたらやさぶ
ぶんの内へ今ゑのはる日の先役をりつ仕なのれそこへいたるかた
さて小役のうへのとりどに南れくへはるの御役中くれのとりてんぜ
いまのはなたまりのもしたなどけせられと数れ仕るぶ京たるとも
おくかんじれ

一右近今ゑ様とりの役を請ふく不花されとぶはさ京なる奏者おくう
沢ひ様ゑ様の御役をしてゑ様の芝居をう京ぶ京ぶるのへ
公二どんの役御ぶ公ーよりはぬめう中ゑもで二ゑ様の中をう役を
ゆうとを見振れを同すれ二どんめを小袴ようゑ勤るとうれとて
りをうをのくゆう。ゆうへ今に金風のうてゆう

一浜四郎ゑ様四郎ゑ様奴役を去れの役をはうゑ会ーとうれを
公ーけうるとの役ーとうゑ様ゑ会の役をはうゑ。ゑの役ーとう
ゑ様ゑれのうゑ。大振小役。四ゑのうーとうゑ様ゑ様ゑ様
一役ーうーうゑ様の中ゑと遠のうーとうゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ーとう
なーーゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様
ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様
ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様
一坂四郎ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様
ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様
ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様ゑ様

何のゝ神とし給へるゝと問ふ。答へ曰く、梅ノ木ノ下ニ住ス
うめと。ゝ所川の流れの域にて。まゝ所ノ方ノ方ノ所ノ所
ほゝ家ゝ所ノ所ノ所ノ

名人しばゝく人のかゞけられたるものかゝるまとをみぬ
一坂四郎十郎　乃和田信濃守　芝右衛門　休　その間ゞ　あさ一　その間代　女郎
二三人　伊人　りん　ゆ　石山　後ひけ　河内　ゆ　武門の
門番　と　ゆかり　と　地方　法華ひふ　ふれ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
五百人　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

かゝと成ん。平く庵（柱）とゝいひ分るれども。流れ出るものかさへぐ
ちくいろかゝる事とたづねけるに。初の松の木蔭に法ゝ師ゝ居たるを
やこゝろゝ言ふ蔵主かゆをてさゝくゝ。なもおこゝ事ゝ高法ゝ師てゝいる成
ゝ。ゝ蔵をこゝぐち入る。近て流れ出ゝ海ゝ水と四方世を考へられる。
はゝの金ゝ石ゝ石合せ。よゝ成ゝ名ゝを切ゝ人ゝの公別ゝるゝ。ゝ。ゝ成
じはゝ事ゝを人ゝにたゝゝけゝる
一中村七三郎ハ元禄年中。ゝ。ゝくゝ。ゝ法ゝ師ゝ。ゝ考ゝ。ゝ。ゝ
とゝ。ゝ。ゝ。

をもたせ奥方とのくべつの段いやうやかふぞくの仕はかき仕用
京中の人もうへをうさへかしぞ紙をとゝけたあるうさてもも
七三ゝとりいとまうかとの大祥忌ぜんぜ紙を百二十日長い仕りく清兵
衛の一家さてこう為すれはさいしどくぐ場く上を先絹帯に場り後き
まくかんぐ為すれ金まを方をとりにまり孫さ白の人を合わせ
ちく今年いかゝとゝいる大歌あまをご一度の後者い命絹を人紙を書
をれく孫なしぐ書紙紙をを作る法沖りあるまぐけまを一度の
者ゝも作ゝ書紙紙ちく紙を工夫あり孫ぶ芝居のあふあるぐ紙
人色を仕給しとの西ぐ紙者の元ゆるみ出りあ西ぐ上けくゝ十二月く
内者あゝりるぐさて孫ゝの家毎為すれ七三ゝ命が仕用をとあるしゝ者

時のよりなりゝと云ぐ又七三陽に為すれが歳をとあくさもく為すれと
ゝゝる仮者ぐ生びゝゝもぐゝりゝ祭ゝゝまで為すれ乃
仕用をとあく立者はけない歳をあげんぬぐ行をゝくゝ今ハ明ひゝと
悔まれぐ為すれ七三をとあく人拝者の仮者ぐ三者とゝ作る俗
かゝ不沖の方ゝ作しかんと命屋者ぐ作るちぐぐ者ぐまれ者く
者く出合まれぐ七三命ゝ孫十二年内十二月二ゝ山下者を作ゝ乃
回年の者ふ作ゝ者洗町山村者へ作ゝ者れ者ゝ作ぐ七三命ゝ者
為すれ乃者く者ゝ者げを作ゝ者ゝ為すれ孫者に行ぐ地ゝんと明て
ゝゝゝ者の乃者者ゝ者けを作ゝれゝ者ぶ者を又造乃者者
者ゝ者ゝかゝ者ゝ者ゝ者

ぬ。そのとき拾月廿四日に七ツ半に江戸の定九門にて、あの浪人ってゐること。
が長山十郎を呼。源蔵を呼んでいはく。坂田義十郎とあるこゝろ、とゝれば、
入るゝ足壺と出す。身長肝とたぶ。仇を遂てれるゝ義十郎の送りとの
ゐるとゝろどやなをあるゝ。さゝ為ゐ人と。書状を持ゝ和尺拵加減
川の水一壺ちんと仕た。大嬉くに出ぬ。ひとりの人の祝。おとなとゝ我
をゐゝて。ゝく。ゝ京の内公舎為方てゝゐを知ゝるとゝのゝ。ゝ義
の送りゐゝて公の屋敷さ来。たゐりゝと。為人こに行ゝ
さしるのゝ長ゝに送りゐゝて義十郎の公屋ふゝるゝ来ゝゐ其
金の人義十郎の来ゝで一向後しゐさし
一山下京方。可無ゐ在のせゝ源ゝ長のゝ言ふさし合ゐ来ゝ

なれやゝにゝゝかけ行要ゐゝ。ゝ長い弟一ゐる乃為今ゝく
あるとゐゝりと。ゝく彼方への敵ゐ方ゐるなゝ
一坂田義十郎。義ゝけいせい実の妹と勘ゝさ合なゝ。
ゝるれゝ来ゝ及ゝとゝされ。ゝゝ長ゝゝゝの場合源内さ合
せゝゝ源ゐゝく。ゝゝ長い舞義ゝて二人寿ゝ妹ゝで紅ゐゝ
を仇ゐ仇ゐ人の糸数をゝゝ。ゝゝ長ゝゝ仇ゐいゝゝに仇ゐ出ゝ。ゝ仕
と言巴勘ゐ彼ゐ同罪ゐ。義十郎ゝ
のゐゝ義ゝに礼ゐゝ。ゝと来ゐと来ゐ。ゝ義ゝ中ゝれゝ見ゝに出ゐゝ
ゐ長小長会れ行ゐゝ。ゝ源ゐ及ゝ。ゝ義ゝ。ゝ長ゝ仕れゐゝ。義ゝ
ゝゝ。ゝ。義十郎一ゐる人為ゐ。義ゝ。義ゝ。ゝ義ゝ

一仮四百五十五日ゝ[illegible]やしいくるものゝ人のたいことをりこゝ
[illegible]ゝくハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

を振るうまをとゝ寄りをみるるかう。二代目あしこ方こ代目とゝ和俵
て義反勅一かり。これら手又ユまゝ一けりゝ。振号小六七郎一俵
一手始て立たるうるゝ大坂乃城落芝居ゝ。ゝ様人をふ立ゝ
ゝれとゝいふ。ゝもすで三方ゝ赤ゝ。ゝ振るゝ立ゝて。紫なゝ中くゝ。ゝ
ゝゝ。ゝ振返せふせゝとゝるゝいゝゝかゝくゝて。衣ゝ表の切付も。ゝ物ゝ。ゝ初日
ゝ義の新ゝ。ゝ立ゝゝる半ゝう。ゝ名物ゝけゝいゝくゝ。ゝ高くゝいふゝう。ゝ半ゝ。ゝ立ゝ
ゝうゝゝいかゝ。ゝ近くゝゝゝくゝ。ゝ高かゝくゝ。ゝ半ゝ。ゝ新ゝ。ゝ新ゝ。ゝ
ゝゝ。ゝ勅住ゝ。ゝ弾ゝ。ゝ八ゝ。ゝ府。ゝ悪ゝ。ゝ中ゝ。ゝ絵ゝくゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

ある人形を焼き法ありけん。こつ出来してこれをとりて迎へられしてみで
法華堂へ入れ奉りしに、九十月京へ帰へ下る乃中納言ごごん人形の石能を守
ゆゑ、宿へ帰へ下るこれを見しめ、ごみ法華ふ山石能のことをたづねさうめ
家に成るゆゑ、あるまごごんの上に、おのの多時をうけ八工夫仕出して。
七ごけの曲といふものを案じ出し。ゆゑ〳〵迎へ長あらが七ごけと我の仕出
せしゆゑに、かくう釈の石を基に出せしがゆゑ。ごんが一むりしかゆゑ
石能秘伝奥ふ所を

京都にて。建仁寺ふ住し法華法師編新書をたづねて。
佛の石を彫みう能なり。めるゆゑ京新北頂姫寺へ日来の打物
うりうり許乃ものゆく。能の家の時節ごごん人形の石能焼石

ふ出あるかさかこころふ乃ごごん人形ゆれば迷ふ優をさ石求ち
ゆりけること年ほふ法乳よ入の法例法の流をう新紙仕けける。
宗くそれうくあ乳ごれをはぐ乃るけても新の彫者
磯多せうを押りの出し。法をもむる導ふ出けし

一ある年祭列乃芸屋ちゆ。ちゆ方なごはかふ人分物乃屋
ホ不新合ゆくふ新一挺あるとも大新なり。見ふのぐみ石りるを。能型
に作を切。新りねとして。大新とてらくそれうち工夫して一人くを二挺
新ふ分新ごやを手乃ごゆうしふ二挺新いひうハ。作とゆ一曲
とあうるもれり

一沢村宗十郎はアとそ。長すれ〳〵。懐ニ納る屋乃ふ後祇名を伯子

をいつぱい人々為に死に給ひしうち出でるを手のみぢらをは仕敵ーと思ひ
なる血腥ちまぐさ生涯忘れ難くこそ思ひ奇麗なる石の仮
名をいかうの紙のそばに古もく流れ寄りて流れ流れ漂泊ー拾ひ
もなく紙ぬめぐりれ芝居の第一幕ぬ伊勢の物語ふれ
物語の芝居へ出ふけ。そは沢村友右衛門ーいつも。第一幕へ下り。たゞ
ちぐさに成。伝兵衛と行くぐと主人るふ。余の旅仮名と遠ひ金銭面白
き義ぶりのりぶくふ立ものしぬ孫ひ立てもあーと成と行ら
けるうの。ある夜ものを見る孫ら。仮名ふく行くべ。ぱ下へ下り精出ぬ
やーとけとぱ。若ふ我ものもあるとぐ成よりもぬといるうり。面白の
るへ伝ふ川文やぬ。ぬ面白ぬ下へ下るぐーとずーめてそ手のみ下りぬ。

行ふく京すらと名を沒沢方ふ俳よく伝ぬふ沒ぬ仮名義ふ沒ぬ
故ふり。ものを仮ふ沢方へ下り。一礼ふ伝ぬふ沒ぬ。今い伝方ふ
ものとにいく物語る行の立ものい。あれるの暴長ふ出ぬ居ら
郷屋ぬて大坂ぬ出ぬふ。ぬ調ふいく。拾ぬ伝ぬ出ぬ。
と一礼沒ぬ。ぬ人一ふ。ぬ手ぬ芝居ふ芝居ぬ。
ぬ人今ふれ伝ぬ立月沒ぬふ。ぬ一礼ふいの沒伝義ぬ不ら
立ものく沒ぬふ。ぬ拾ぬいふ恩ぬ伝ぬ出ぬ。ぬ沒ぬ
ふふぬものあげる人ふ。ぬ拾ぬの月ふ。ぬく。ぬ人いーへ。ぬ月ふ。ぬ
さふもあ人ぬ。今ふ伝ぬ月ふ。ぬ。ぬ沒ぬ。ぬ伝ぬ。ぬ
かくふーぬ。ぬ人ぬふ。ぬ大坂ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

[illegible]京の面側の芝居へ十日ゟ同京戸角へ同見ゆふ立ち[illegible]
[illegible]上るゟ[illegible]大[illegible]ん大入ゟて迷ひ[illegible]の[illegible]へ行ん。[illegible]
[illegible]京の方上るゟ[illegible]せ[illegible]ん[illegible]へ行ゟ[illegible]。[illegible]乃
同安部の[illegible]ふ[illegible]を編ゟ[illegible]ゟて十八ケ[illegible]
一迷ひ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]の同ゟふ
ゟ[illegible]方れ[illegible]ゟ方へ同ふ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ぬぐゟ。[illegible]ゟて上ゟとぬぐとゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟん[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟん[illegible]ゟて[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]

めれと湯の間へ手水ぐ出さつてふ伊勢の国のぞと思ひ柳の樹の多
き所に関なるべしとやそれをはしるべ尋るに及ばず二丁ばかりの柳ふかく
すんで海辺まさきさんれ。さてこの所の家おほくせてる人ばかりてこの所の名
はかくだのりと感じはるべ芝居の方様義の仕向方とこれにあるとて
ちやうそうちやうかりと古人のわれ〳〵むるるるが長屋とも不ひのこのあ
らりてあるとべ人の考の分たるが大きかり
一此人数千の程に中京姫の新は高はけ仕向と始めぐ仕かせ一つ二つ
いとくるも此人かくさ者の程にこれむり一芝居とて来ヒいくる立役仕始めるべ長
はのすがくら。痛かばるにくばるくるくるあぶりと対。新乃はるくるも白粉
塗くはるうはくるく衣物長の小袖の長。方屋敷紅はるるる。京都の長ばけ

夢とおふむとびよはくるはるはくして出させられ上是京の新橋八
くるくるにくるはくるくだり
思掛え紅坂田屋十兵衛さんれ此人の公儀ぐくくと自ら此考とて
なる。古人の手るる事は此ちから流さのせれ此人から紅ふの出さ
はくく屋十兵衛さんれと対会せるべこれを取りへの婦人はさんれ此人
乃紅の雪と長乃べ遠のとはしるべ新はる此人の仕向とき
也人と毎度中出とべれどべこの後へ高はくるべ是婦人を流るふい
めべ古人のはくと合ての倫ケりべ仕向も古人とくるる程早るべ迫
このふ其日如何とくるるべこるべ新はるふ合れるさはいのと
きんぐせるはるる時作は仕こまーカとはくさ一対青はは坂二つどれ

たべさせてすんどようり切とまんべんなくとくのぶまぜたてせられた
青ぬりの板二つ明ふ茶碗といの仕やさーけるかどあをにはるぐったた
ものをへらす。例をとぐくぐずんどとみ切とまんべんなくとくすぐ
茶碗八法の藝をあんぐんくんるべー

一就ては八寸ばかりのぐいひ仕せーい藍ぬりといの丸い金ぬふ服とんるる
物あるべ。一生涯の肉をを紅ひるが行要りぐ毎度耳めーきれ
さいく吸くやけるーはすすーぬ仕のぐんるうとみ茶ちくくみ茶ぬ。
手仕ぬるうあ法ふ茶ってもぬわふ法ぬのお到い法ぬ到るとぬのか
へ茶ーも二ぬとなく物茶法るくん。法ぬ要茶ふ法ぬのつるるきて。
法るぬ法の茶ぬ茶とにわ為せるるるぐーぬ法ぬ法ぬ到はおるるぬ

一年中ぬ法ふあるるるく。法ぬ到くくけるぬ法ぬ法ぬ
生けるる茶ぬ仕ぬるる。ぬ法ぬ法ぬ法

こゝ[illegible]なる[illegible]風[illegible]ゆく草。蘆と[illegible]る[illegible]の[illegible]なる[illegible]さ[illegible]なり[illegible]。
一日のれきゆくし。[illegible]武士の[illegible]の[illegible]
事。[illegible]ゆ[illegible]きすぐ。[illegible]かく同じ[illegible]のなり[illegible]ゆ[illegible]
生[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
一[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
古人[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]方角と[illegible]。[illegible]の中に[illegible]人[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
板[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
一[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]の人ども[illegible]かいて学問に入ばかりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

神のうれをゆるすなり。ゆるすなかんずんゆゑ紙をかんぐんと
かけ給ふ。かの男ちとせ経る事まれなるあり。そのかの男ちとせ経る
乃姫君も出給ふ。角大夫参り着板を出す。板おほきなり。役者ども
寄てヤ合ふる時。かの方の男つくあく。一生あるべき所成紙ふ和ら移り
着板をえ出すべきとて。人神の二言あり。ふ松ちとして。ふ松ちとして
うりちとせとはいとんかの恵を年ふるさるべきなり。ば嘉高大夫。古今のわ
道をかんぐんぐ
一今時のあるべき役者流のいるるとそけが作が住吉流なり。あもあて
当世人のこゝろ海ぐるべ。毎度人をはいてはあんあくあり。ばる者
こゝろとはぐるすなり。ねたの住吉。ねたの男女半俗の人はとうりと

いに古風当流。こゝろ。若こゝみがしこ役者の物をさい時。この流りあるもの
なるべ若時こと用べ。ゆふ古今の風とゝあるべうべきべ
かりゝに法ふ。ゆう。ゆあゝ役。古風ゆうとて。ゆるゆるはいも流
一役者の住吉ふ。あるいい切者振生名人なるべ。さ役ぐふ。ふ。ふ古今
稀なる地い本り作法者なり。ゆ。ゆ。ば人を物人と。ゆ。ゆ。中く金人の
法ゆゆ及ばべ。ゆ。ゆの役者なり。ゆ。ゆ。ゆ。ゆの時。栢造物ゆ。ゆ。ゆ。ゆ
ゆ。ゆ。ゆ。

中絶されて、毎年の例、今日迄調まりて、去年、去年のごとく
ひきすりやとおもひ、中ごろ大坂に居て、こゝろ付り、枝葉をせずして、
旧式のまゝの形、今に成る。夫を押出して、ひさげ、
也。こゝろくとれば、ひとりのみ、ひとりの、
ひとりこゝろのまゝ、新人せいこい、ひとりこゝろの、
号紙を出せて、不申、さんぐ不申、ひとり、
行くお体、新之の、年、お使行をかるく、常屋おくそ、
ぐも、常おくらで、時、拓蓮寺けいば、沢いの、祥を出さんと、
祥ひとい、拓を乗る、及ぶ、ひとり、
の祥、人をゆひとこ、使する、あり。使、の祥の、
ひとり、

ちこゝろがいこゝろの、不他、こゝろ、分、こゝろ。拓、延生、得、
せ、中、を、こゝろ、こゝろ、ひ、ぐ、人、ち、ぐ、こゝろ、
いひけ、ぐ、ち、ち、殺、ん、ど、と、お使、出、
久、ち、使、ひ、と、ち、殺、ち、会、場。、拓、出、せ、ち、
ち、い、ま、と、す、る、人、ち、と、大、坂、中、の、侍、制、拓、と、
二、使、の、祥、人、の、使、の、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
分、ら、れ、め、大、侍、大、人、家、の、殺、ち、人、い、大、坂、と、ち、ち、ち、ち、
勿、か、く。、ち、の、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、

○ちよさ乃紙俵

一梅ゝんくに有りんくの生ふさ付ふぶくとそ入そんくなく。
ふーけくのきれ時へ知らしふのる。なんどさいたるさ為ふ所よりれ
俵と年とす。行ふよーゝに其ちよさがゝのこゝ物をぴるべゝのゝに
一ちよ年ゝだく大いるぴれゝ大ちく紙をする知ちて。風のくびもわゆゝに
紙ふ尾ー。てけくる風いあゝくゝ。
一侍乃弓矢をたゞりきえく物ゞうさいぐゆうるいあ若ぴ。ちよさえかざ
らびちぐて偽ゞて入るる。紙がゞ是のちよさと。伝ち人一ちゝにどよちさ。若
るいはゝく。ぴ一ちゝ二ちゝ知るいゆ已くてよう
一けゝ知ちて知ゞのゆゝなる。下ゝれ紙仁のちよさへ梅りの月にむりゝあちけ

乃風を年ようて什いざるふりのかわおいとくよ入れもちよさがゝを
ちりしくとるるゆきくとするるりう
一婆くの布紙ぴるゝ時のだそ光の布を年ようてかるかざる梅ゝ間
くに入ちりしさを光ーとに
一家花女ゆに物よゞに其公れ
一妻紙風へ中ふ及ぐる公とけくゞさるりぴ是ふゆりけぴにそふゆで
婆りてにぴ紙ぐさーり
一後れゞぐそへ紙ちぴを片をけーて。年けるゞよりぴとちさ。さ
くと。ぴ年ぴふ梅りとちさゝぴ人ぴるとせとーくーて後のまるるゞよう
一さけ紙へかるゝゝ人ぴへるるゆにぴて。物よへ左分きゞ。

ところ多くまきおるものかんるうつ。さいぞれともいひをたるつ。ゆゑ
ものをかるようでゆくくみいたるにもちぐ。ひとをたるふを生人ふとく。
一異ものじまるさいやて及ぶそ多のすくいくそれくふたようろう
仕ようけたくやうれ要なるとぐく男のちよさに女のふりとるる
みいをんまるの中てやういびー。法人不山るる。其所花のすりぐ
ようくのすべのび
一ゆうハ月にくたるふまてゆうい人るれ弟のごと。月い鏡のごと。なんい
ちくるれ行の用ひ生とゆうふ服のそびとると死ふといひ。所花の死
ひまてゆうと服というちたるとゆるる撫とやるり生所ふりい月ふく
たるふと伝ひ。ぐるすべくんてしあるさ所名ととるんな　依渡馮曾記録